

探究課題：友和の「竹炭」を守り伝える地域の人々から、見えてくるふるさとへの思いや願い

つながりを深めよう
「竹炭からみえるふるさと」

育成すべき資質・能力：①知識・技能 ②思考力・判断力・表現力 ③主体性 ④自らへの自信

1 日時 平成30年10月17日（水） 第5・6校時

2 学年・学級 第5学年1組（40人）

3 単元名 「竹炭からみえるふるさと」

4 単元設定の理由

(1) 児童の実態から

ア 児童と地域との関わりの視点から

児童は、総合的な学習の時間をはじめ各教科等の学習で、年間を通して学校支援地域本部の方と触れ合う機会が多く、学習や体験活動を支援してもらっている。しかし、平成29年度全国学力・学習状況調査質問紙の下記の項目において、肯定的な回答が全て県平均を下回っている。地域の人々が自分たちを見守ってくれているという意識が薄く、積極的に地域や社会に参加したり、地域や社会のことに関心をもったりする意欲が低い傾向にある。また、地域や社会に対して貢献しようとする意欲も非常に低い。

平成29年度全国学力・学習状況調査質問紙結果

質問事項		当てはまる	どちらかといえば当てはまる	合計
今住んでいる地域の行事に参加していますか	本校	26.5	29.4	55.9
	広島県	39.7	26.7	66.4
地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がありますか	本校	29.4	29.4	58.8
	広島県	31.9	35.9	67.8
地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがありますか	本校	8.8	8.8	17.6
	広島県	16.0	29.6	45.6

イ 探究的な学習の過程等における児童の意識調査から

質問		よく当てはまる	やや当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない
課題設定	1 「総合的な学習の時間」では、自分で課題(かだい)を立てて学習活動に取り組んでいます。	25.0%	37.5%	27.5%	10.0%
	2 「総合的な学習の時間」では、解決(かいけつ)しようとする課題(かだい)について、「なぜだろう」、「やってみよう」と思います。	32.5%	37.5%	20.0%	10.0%
情報収集	3 「総合的な学習の時間」では、課題(かだい)を解決(かいけつ)するために、進んで、資料(しりょう)を集めたり取材(しゅざい)したりしています。	22.5%	22.5%	27.5%	27.5%
	4 「総合的な学習の時間」では、課題(かだい)を解決(かいけつ)するための情報(じょうほう)を集める前に、どのような方法(ほうほう)だと必要(ひつよう)な情報(じょうほう)を集めることができるのかを考えています。	20.0%	30.0%	25.0%	25.0%
整理・分析	5 「総合的な学習の時間」では、情報を比(くら)べたり、仲間分け(なかもわけ)したり、関係を見付けたりして、何が分かるか考えています。	37.5%	17.5%	30.0%	15.0%
まとめ・表現	6 「総合的な学習の時間」では、学習したことを図・グラフ、表、新聞、作文などにまとめています。	30.0%	30.0%	30.0%	10.0%
	7 「総合的な学習の時間」では、自分の考えを積極的(せっきよくてき)に伝えています。	20.0%	40.0%	20.0%	20.0%
	8 「総合的な学習の時間」では、自分の考えとその理由を明らかにして、相手(あいて)に分かりやすく伝えるように発表を工夫しています。	20.0%	42.5%	22.5%	15.0%

(ア) 課題の設定について

「自分で課題を立てて学習に取り組んでいる。」と肯定的に回答した児童の割合は、62.5%であった。児童に課題を立てさせて指導することが少なかったため「課題を立てる」という意味を児童が理解できていないことが考えられる。しかし『総合的な学習の時間』では、解決しようとする課題について『なぜだろう』『やってみたい』と思います。」という設問においては、肯定的に回答した児童は70%と比較的高く、「なぜだろう」「やってみたい」と意欲的に考えている児童が多い。

(イ) 情報の収集について

「課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材したりしている。」と肯定的に回答した児童は45%と低い。半数以上の児童が、課題を解決するために、進んで資料を集めたり取材したりしていないと感じている。また、情報収集の方法についても、半数の児童が必要な情報の集め方を考えていないと回答している。

地域の人などを招き、話をしてもらったり質問に答えてもらったりするなどの場を設け、情報収集の機会を児童に与えてきたが、受け手の児童は情報を収集していると考えていないことが分かった。これは、児童が「なぜだろう」「聞いてみたい」という興味・関心を抱く前に、話を聞く場を教師が与えてしまっていることが原因だと考えられる。

(ウ) 情報の整理・分析について

56%の児童が肯定的な回答をしているが、指導者の意識調査では、「児童に情報の整理・分析を積極的にさせている。」という肯定的な回答は18%と低いことから、児童が情報を整理したり、仲間分けしたりする経験がほとんどなく、具体的な学習の場面を想定できないまま回答していることが考えられる。

(エ) まとめ・表現について

まとめ・表現に関わる三つの項目全てにおいて肯定的に回答した児童が60%を超えているものの、自分の考えとその考えの理由などを相手に分かりやすく伝えようとすることに課題がある。単元のまとめを新聞や作文に表現しているが、学習した内容をまとめることが多く、学習を通して経験したことなどについて伝えたいことや相手に理解してほしいこと、今後自分の生活とどう関わっていくかなどを考える学習となっていない。

上記の児童実態から、探究的な学習の過程を充実させた地域教材単元の改善を行う。地域に関心をもつことで、地域の人に支えられていることに気付き、地域のために自分たちにできることは何かを考え、その課題を達成するための探究的な学習を行うことが重要であると考えた。その手立てとして、7「学習指導計画について」の右欄「意識調査からの留意点」に指導の工夫を記す。

(2) 題材について

校区の佐伯地域で盛んだった炭作りは、戦後、過疎化とともに衰退していった。しかし、地域の人々が10年前から、子供たちに伝統を伝え地元に愛着をもってもらおうと「竹炭」作りを始めた。作られた「竹炭」は公民館祭などで地域の人々が販売されていた。当初は、児童が関わることはほとんどなかったが、7年前に竹炭用の竹を切る作業を児童が手伝い始め、4年前からは児童が竹炭の効能などを書いて商品に入れ、竹炭の袋詰めを手伝っている。昨年度は、校内のイベントで児童が保護者に竹炭を販売する活動を行った。

「竹炭」作りを地域の人と関わりながら協働的に学習することで、地域の人へのふるさとを大切にす

る思いに気付き、自分たちを常に見守ってくれている気持ちに対して感謝することができる。また、友和の「竹炭」をたくさんの人に知ってもらうために、自分たちができることを考えることを通して、友人や地域の人とのつながりを意識したり、地域に誇りをもったりしながら、地域の中で育つ自分を見つめ直すことができる。以上のことから、「竹炭からみえるふるさと」は、児童が自分たちで課題をよりよく解決していこうとする力を育み、地域や社会のことに興味をもち、地域や社会に対して貢献しようとする態度を育てるには適した題材であるといえる。

5 単元目標

- 「竹炭」についての情報を収集したり、竹炭を作製・販売したりする体験を通して、自分たちにできることは何かを考え、よりよく課題を解決しようとする。
- 友人や地域の人と協働的に取り組む学習活動を行うことで、地域の中で育つ自分を見つめ、自分の考えを広げ、自己の生き方につなげて考える。

6 育成すべき資質・能力

資質・能力 の三つの柱	育成すべき 資質・能力	評価規準【探究の過程】
知識 及び 技能	知識 技能	○地域の人（学校支援地域本部）が作っている「竹炭」は、様々な人々の思いや願いによって支えられていることに気付き、地域の人と自分たちは関わって生活していることに気付いている。 ○各教科で学んだ知識や技能を総合的な学習の時間で活用しようとしている。 【まとめ・表現】
思考力, 判断力, 表現力等	思考力 判断力 表現力	○友和の「竹炭」をたくさんの人に知ってもらうため（課題解決）に適切な方法で情報を集めている。【情報の収集】 ○収集した情報を思考ツールを用いながら整理・分析し、話し合いを通して自分の考えを深め広げている。【情報の整理・分析】 ○友和の「竹炭」について相手や目的に合わせ、作文やリーフレットにまとめたり、発表したりしている。【まとめ・表現】
学びに 向かう力 人間性等	主体性	○友和の「竹炭」について疑問や不思議を見付け、地域の人への思いや願いを明確にした課題を設定しようとしている。【課題の設定】 ○友人の振り返りを讀んだり、地域の人と協働的に取り組んだりすることを通して多くの情報を収集しようとしている。【情報の収集】
	自らへの 自信	○友人や地域の人とのつながりを意識したり、地域に誇りをもったりしながら、地域の中で育つ自分を見つめ直したりしている。【まとめ・表現】 ○「竹炭」に関わる地域の歴史や生活を再発見し、次の学年で取り組みたいことについて見通しをもったり新しい課題について考えたりしている。 【次年度への課題の設定】

7 学習指導計画について (全 36 時間)

次	学習活動〈育成すべき資質・能力〉全 36 時間	予想される児童の反応	【教科横断的な単元】 他教科の「見方・考え方」	○意識調査からの 留意点 ☆思考ツールの活用
一 竹炭との出会い	情報の収集 (3) ○炭焼き窯見学に行き、地域の人の思いや願いについて考える。 ○全国の竹炭の生産量の推移グラフの変化からわかることを話し合ったり、調べたいことを考えたりする。 ○「炭焼き窯」や「竹炭」について地域の人 (GT) から、話を聞き、地域の人の思いに気が付き、考える。(知識・技能) ○「竹炭」について家の人に、調査をする。 ○過去の 5 年生の学習の様子 DVD を視聴し情報を集める。 情報の整理・分析 (1) ○地域の人や家の人から聞いた情報を整理する。 (思考力・判断力・表現力) 情報の収集 (1) ○再度、「竹炭」について調べる機会を設定し、「竹炭」の良さについてより詳しく調べ、疑問をもったり解決したいことを考えたりする。	この窯は、何のためにあるのだろうか？自分達にはあまり関係ない。 H15 年をピークに竹炭の生産量は減少傾向にある。使う人が少ないのかな？なぜ、地域の人は竹炭を作っているのかな？ 6 年生は、竹炭を学校のお祭りで販売して、売上金を赤い羽根募金に寄付したんだって。 家の人に聞いても、友和の竹炭のことをあまり知らなかったよ。地域の人が一生懸命作っているのに残念だな。	【国語科関連単元】 「敬語を適切に使おう」 「和の文化について調べよう」 【社会科の「見方・考え方」】 地域の人々や自分たちの生活と関連付けて考える。 【算数科の「見方・考え方」】 数量 (グラフの傾き) に着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考える。	○学習の始めに、地域の人の思いと児童の考えとのずれが生ずるような場を設定する。(地域の人の思いとのずれ、生産量を予想しての隔たり) ○炭焼き窯見学に行った時の自分の思いと、地域の人の思いとのずれに気が付き、地域の人の思いに応えたいという意欲を引き出す。 ○過去の学習の様子を視聴させることで、自分たちもやってみたい！6 年生よりもっと、よりよい学習にしたいという、対象への憧れを抱かせる。
二 竹炭と本気で向き合う	【単元名】「竹炭からみえるふるさと」 【学習課題】「竹炭」の秘密を調べ、友和の竹炭をたくさんの人に知ってもらおう！ 課題の設定 (2) ○今年度「竹炭」について、どのように学習していくのか見通しをもち、課題を設定する。(主体性) ○表現方法について考える。 ○誰に伝えたいのか。どのような方法で伝えるのか。(思考力・判断力・表現力) 情報の収集 (2) ○「竹炭」の効果について、調べる。(情報の吟味) ・竹炭の清浄効果の実験をする。 ・家庭科の調理実習で、竹炭ありと無しのお米の味比べをする。 情報の整理・分析 (2) ○「竹炭」の清浄効果実験と調理実習のお米の味比べ実験の情報を整理分析する。(知識・技能) まとめ・表現 (2) ○「竹炭」の清浄効果実験と調理実習からの情報をまとめる。 情報の収集 (4) ○「竹炭」用の竹を切る体験を通して、地域の人の思いや願いを感じたり、地域の人が工夫していることに気付いたりする。 (思考力・判断力)〈自らへの自信〉 【作業手順】 ①竹を切る②竹を割る③竹の節を取る④竹を束ねる。 情報の整理、まとめ (1) ○「竹炭」を作る作業について、感想を作文に書き、新聞に投稿する。 (思考力・判断力・表現力) 情報の整理、まとめ (3) ○「竹炭」について、伝えたい情報を、整理したりまとめたりする。 ○「竹炭」のことを、よりたくさんの人に知ってもらったり、買ってもらったりするために、どんな情報を選び、どんな順番で説明書 (リーフレット) に記述すればよいかを考え作製する。 (思考力・判断力・表現力) (知識・技能)	みんなにもっと竹炭について、知ってもらいたい。6 年生のように、パンフレットにしてみようかな？ 国語科の授業の、「和の文化について考えよう」の単元で、和菓子の歴史、和菓子を支えた人々、和菓子の未来の構成で説明されていたよね。竹炭について、どのような説明がよいのかな。 竹炭は空気や水をきれいにするんだって。そういえば、おばあちゃんの家で冷蔵庫に炭を入れてたよ。 インターネットで、竹炭を入れてご飯を炊くと美味しくなるってあったけど、本当かな？家庭科の炊飯の実習で調べてみよう！ 竹を切るのは、想像していたよりも難しい作業だな。手がしびれるよ。友達と二人で作業すると、手が痛くならなくてすむかもしれない。 自分たちも、作文に書いて、新聞に投稿したい。 竹炭を買ってもらうための情報は、どんなことを載せればいいのか？清浄効果やお米がおいしくなることを情報として説明するといいかもかもしれない。	【社会科関連単元】 「米作りのさかなな地域」 【特別活動の「見方・考え方」】 社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成に結び付ける。 【家庭科の「見方・考え方」】 衣食住に係る生活事象を健康の視点で捉え、よりよい生活を営むために工夫すること。 【家庭科関連単元】 「食べて元気！ごはんのみそ汁」 【国語科の「見方・考え方」】 体験活動の中で、言葉の意味や働きに着目して捉え、言葉の自覚を高める。	☆座標軸 (比較する) ○自分たちの思いとは別に、家の人の関心が薄いことに気が付き、対象との隔たりを感じさせる。 ○無自覚的な情報収集から自覚的な情報収集 (自分たちが聞きたいことを聞く) へと転換させる。 ☆座標軸 (比較する) ○体験活動を行ったときの感覚、その時の思いなどが、時間の経過とともに薄れてしまわないように、時間を設定する。 ○自分たちが想像していた作業よりも大変であることを味わわせ、体験を通して対象とのずれを感じさせる。(想像していたこととのずれ) ○伝えたい相手を意識して、伝えたいことを論理的に表現することで、児童の考えを一層確かなものへと導く。(相手意識、目的意識を明確にする。)
三 竹炭作りを体験する	【新たな学習課題】作った「竹炭」を自分達の考えた方法で、販売しよう。 新たな課題の設定 (4) ○「竹炭」をどのように販売するのか考える。 ・竹炭のお店の名前を話し合う。 ・販売価格を考え、話し合う。(知識・技能) ・売上金について話し合う。 ・廿日市市生涯学習フェスティバルで発表・販売するために必要なことを考え、話し合う。 (知識・技能) (思考力・判断力・表現力) (自らへの自信) 情報の収集 (4) ○6 年生や地域のの人に再度聞き取りをする。 ○GT に、昨年度のことについて聞き取りをする。 ○販売用の竹炭を、計量して袋詰めをする。 まとめ・表現 (3) ○廿日市市生涯学習フェスティバルの様子のビデオを視聴する。 ○販売後の振り返りをする。(思考力・判断力・表現力) (主体性) ○販売した後、売上金について考える。(自らへの自信)	300 円と 400 円の間の 350 円にしたらどうか？ 売上金はみんなで分けたいよ。欲しいものが買えるから。 広島の高雨災害や北海道の地震の被災者に募金する方がいいよ。困っている人の助けになるから。 地域の人に協力してもらったから、地域の人に分けるのがいいよ。新しい道具を買ってもらおうよ。 竹炭を販売する時に、募金のことを伝えたら、1 円を寄付してくれたよ。その人の思いに応えるためにも、売上金は募金がいいね。	【国語科関連単元】 「書き手の意図を考えながら新聞を読もう」 「新聞記事を読み比べよう」 【算数科関連単元】 「単位量あたりの大きさ」「見積もりを使って」 【算数科の「見方・考え方」】 数量 (多いところから少ないところへ移動してならす方法) に着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考える。 【算数科関連単元】 「平均」「概数とその計算」(4 学年) 【特別活動の「見方・考え方」】 社会の問題を捉え、社会への参画に結び付ける。 【道徳の「見方・考え方」】 道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え、人間としての生き方について考えること。 【国語科関連単元】 「古文」「不思議な世界に出かけよう」 【国語科の「見方・考え方」】 どの言葉を使えばより伝わるかの使い方に着目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高める。	☆座標軸 (比較する) ☆クラゲチャート (整理する) ○昨年度の中国新聞のヤングスポットに掲載された作文を読み、竹炭の事を広めたいという思いをもたせる。 ○児童の無自覚的な情報を、言語化させることで、課題解決に向けて意識させる。
四 竹炭の説明書を作成する	【新たな学習課題】「竹炭」を次の学年につなごう！ 新たな課題の設定 (1) ○「竹炭」を、次年度へ引き継ぐための方法を考える。(思考力・判断力) 情報の整理、まとめ (3) ○4 年生に引き継ぐためのパンフレットを作製する。(知識・技能) ○活動を振り返り、次の学年での新たな課題への見通しをもつ。(自らへの自信)	これからも、友和の「竹炭」の学習が、困っている人を助ける活動として、続いて欲しいな。そのために、今の 4 年生にわかるようにまとめておこう。今の 4 年生に、この活動を引き継いで欲しいな。		○次の学年に引き継ぐ系統的なカリキュラムが編成できるように意識して指導する。 ○次年度に向けて新たな課題を意識させる。
五 竹炭を販売する				
六 竹炭で募金活動				
七 竹炭を引き継ぐ				

8 本時の学習

(1) 本時の目標

○竹炭の販売価格について友人と話し合うことを通して、収集した竹炭に関わる情報を整理・分析し、納得できる理由を考えながら、自分の考えを深めたり広げたりすることができる。

【育成すべき資質・能力： 思考力・判断力・表現力】

(2) 準備物

ワークシート、付箋、タブレット型PC、電子黒板、総合ファイル

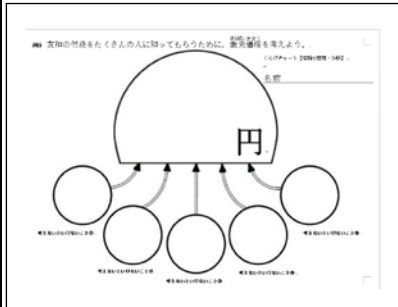
(3) 学習の展開 (23・24 時間目／全 36 時間)

	学習活動 ＜育成すべき資質・能力＞	予想される 児童の反応	【教科横断的な単元】 他教科の見方・考え方	●指導上の留意点 ○探究の過程における留意点 ☆思考ツールの活用
情報の収集	1 これから自分たちがどのような学習をするのかの見通しをもつ。 11月4日（日）廿日市生涯学習フェスティバルへの参加（ステージ発表・竹炭の販売）＜知識・技能＞ 2 前時の学習を振り返る。 - 座標軸の付箋の提示 - 全員の児童の振り返りを一覧表にしたプリントを読む。 - 前時を振り返って、自分の考えを再考する。 - みんなの振り返りを読んで、感想を書く。	廿日市市の人がたくさん集まるお祭りなんだね。自分たちの課題である「たくさんの人に友和の竹炭を知ってもらう」には、いい機会だね。ステージ発表もあるから、販売する前に宣伝しよう。 Aさんは、北海道の災害の事を考えたんだな。B君は、広島の高雨災害の事を今でも考えているんだな。 Cさんは、地域の人にお世話になっているから、地域の人に何かできたらいいなと思ったんだね。 Dさんは、次の4年生のことまでを考えているな。来年、竹を割ったり、竹炭を焼いたりすることが、もっとやりやすくなるために使って欲しいと考えているんだな。	【道徳の内容】 B（ウ） C（ウ）（オ） D（ア） 【社会科関連単元】 「自然災害から人々を守る」 社会科の見方・考え方 地域の人々や自分たちの生活と関連付けて考える。 【国語の見方・考え方】 誰の言葉で自分の考えが深まったのかを捉え、言葉への自覚を高める。	●廿日市生涯学習フェスティバルについての様子や目的について説明する。 ○情報の収集 無自覚的な情報の収集（前時の振り返り）を一覧表にして児童に提示する。 ○情報の収集 無自覚的な情報の価値付け 「悩んだ」「迷った」という振り返りに価値付けをする。 ○情報の収集 全員の考え（情報）を共有させ、新たに自分の考えをもつことができるようにさせる。 ○課題の設定 前時の自分の考えと今の自分の考えを対比させ、問題を見出し、課題意識を高めることができるようにする。
課題の設定	4 前時の「売り上げ金の使い道」の投票結果を知り、本時の課題を知る。 - 募金 19人 - みんなで分ける 19人 - その他 2人	「みんなで分ける」と「募金する」の意見が半々だったんだ。 いよいよ、販売に向けて考える時が来たね。		●売上金の使い道の最終決定は、この時点では行わず、販売価格を考えさせる。
	廿日市市の人たちに、友和の「竹炭」を宣伝しよう！ PR 大作戦 「友和のスーパー竹炭 2018」店で売る竹炭の販売価格を決めよう！			
	5 自分たちのことが掲載された新聞記事から、必要な情報を整理する。	いくらで販売するのが、いいのだろう？		●掲載された新聞記事を読んで、自分に

6 個人で竹炭の販売価格を考える。
・クラゲチャートを使って、価格を考え価格決定した理由などを記入する。

<主体性>
<思考力・判断力・表現力>

クラゲチャート

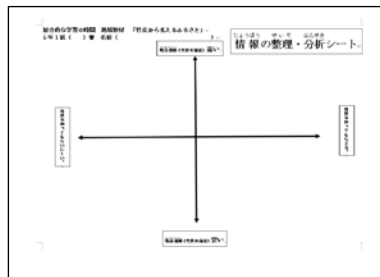


・自分で考えた価格を付箋に記入する。

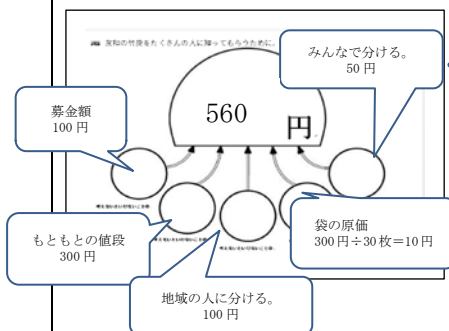
7 グループの情報を座標軸を活用して整理し、販売価格をグループで話し合う。

<主体性>
<思考力・判断力・表現力>

座標軸



8 グループで発表する。
<知識・技能>
(タブレットのクラゲチャートに販売価格と理由を記入する。)



消費税はどうするの？
8%っていくらになるのかな。

単に価格を決めればいいと思ってたけど、地域の人のことなどを考えないといけないだね。簡単に値段を決めるのでは、いけないね。

地域の人の事も考えると、考えていた価格と違ってくるね。

400 円にしたらどうか？

300 円の方がいいよ。

400 円と 300 円の間をとって 350 円でいいんじゃない。

販売価格を 1000 円にすれば、たくさん寄付できるよ。

友和の竹炭の事を知ってもらったから、そんな高い販売価格だと買ってもらえないよ。安い価格でたくさん販売したらどうか？

それなら、無料で配ればいいんじゃないの？

ただで配ったら、大変だよ。先生が原価のことを言ってたじゃないか。

お母さんや、おばあちゃんに聞いたら、あんまり高い値段だと買ってもらえないと言っていたよ。

○班は、原価の事も考えて、販売価格を設定したんだね。

○班は、土砂災害の被災者の人数や今の状況のことを考えているね。

1000 円だと募金額は上がるけど、本来の目的である友和の「竹炭」をたくさんの人に PR することにはならないと思うよ。

自分たちの課題は、「友和の竹炭をたくさんの人に知ってもらう。」ためだということをお忘れはいけないと思うよ。

【算数科関連単元】
「単位量あたりの大きさ」
「見積もりを使って」
「割合」
「平均」
4 学年
「おおよその数」

算数科の「見方・考え方」
数量(多いところから少ないところへ移動してならす方法)に着目して捉え、根拠を基に筋道を立てて考える。

道徳の「見方・考え方」
道徳的諸価値の理解を基に自己との関わりで多面的・多角的に捉え、自己の生き方について考える。

社会の見方・考え方
事象の相互関係に着目して捉え、比較・分類したり総合したり、地域の人々や自分の生活と関連付けて考える。

国語の見方・考え方
どの言葉を使えばより伝わるか、言葉を選んでいく。

にとって大切だなと感じる文章に線を引かせる。

- 記載された新聞記事から「価格は児童が決める。」ということを確認する。
- 竹炭を販売する目的が薄れないように助言する。
- 自分たちが参加する目的を確認する。「家の人や地域の人に友和の竹炭についてもっと知ってもらいたい。」

- 前時の児童の振り返りの「地域の人にも分ける。」という記述から、地域で販売されている値段を提示する。
- ・地域で販売されている竹炭の価格
500g 300 円
- ・販売する竹炭の量
 $500\text{g} \times 150 \text{ 袋} = 75000\text{g}$

☆「クラゲチャート」

- 販売価格を決定した理由を明確に説明させる。

☆「座標軸」

- グループで座標軸を活用しながら話し合いをさせる。
- 個人で付箋に値段と理由を記入させておき、座標軸に貼らせることで、視覚的に「販売価格」と「竹炭を知ってもらえること」の二つの視点で、分類できるようにする。
- クラゲチャートに、グループで決定した販売額と理由を記入することで、グループでまとめることができるようにする。
- 電子黒板を使って、グループの提案を分類し、視覚支援をする。
- 最も納得のいく理由を挙げているグループに焦点を合

まとめ	9 販売価格を決定する。 10 振り返りをする。 <知識・技能> <思考力・判断力・表現力> 評価規準 収集した情報を、思考ツールを用いながら整理・分析し、話し合いを通して自分の考えの変容に気づき、考えを深めたり広げたりしようとしている。	単に売る値段を決めればよいと思っていましたが、そうではないことが分かりました。自分たちの思いだけではなく、竹炭を手伝ってくれている地域の人の思い・願いや、買ってくれる人の事など、いろいろな人たちのことを考えながら、値段を決定しなければならぬと感じました。 友和の竹炭をたくさんの人に知ってもらうためには、販売価格だけではなく、もっとPRできるように、ステージ発表や販売する時の呼びかけなども考えないといけないと思いました。	特別活動の見方・考え方 自己及び集団や社会の問題を捉え、よりよい人間関係の形成、よりよい集団生活の構築や社会への参画に結び付ける。 道徳の見方・考え方 いろいろな人の考え方を聞いたり話し合ったりしながら、「自分ならどうする」「どのように考える」など、自分のことについて考え、自己の生き方についての考えを深める。	わせる。 ●販売価格を決定することだけにとらわれた振り返りにならないように助言する。 ○次時に、言語化させた振り返りを基に、児童の振り返りを価値付けすることとする。 ●自分たちの目的は、あくまでも「友和の竹炭を廿日市市の人々に知ってもらうこと」という原点に立ち返ることができるようにする。
------------	--	---	---	---

(4) 板書計画

